

佐野小だより 特別号

全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日(火)に全国の小学校6年生を対象に、全国学力・学習状況調査が行われました。

7月末に調査結果が公表され、本校では以下のような結果でしたのでご報告いたします。この調査で測定できるのは、学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることをご承知おきください。

本校におきましては、子どもたちの学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等を尋ねる「質問紙調査」の結果も踏まえて、これからの教育活動に生かし、子どもたちの学習意欲と学力の向上につなげていきたいと考えております。

また、調査に参加した6年生には個票を配布いたします。設問ごとの結果がわかりますので、お子さまの頑張りを親子で一緒にご確認ください。なお、三島市全体の概要結果については、「広報みしま」でお知らせしますので、そちらも併せてご覧ください。

国語

「話すこと」 県平均より極めて高く・全国平均より高い

「読むこと」 県・全国平均より高い

<評価の観点>思考・判断・表現 県・全国平均よりやや高い



今回、県・全国平均と比較してすべての問題で高い正答率となった問題は、「話すこと・聞くこと」に関するものでした。

①必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に伝えることができるかどうか。②目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の関係をまとめることができるかどうか。これらの出題の趣旨を踏まえた解答が見られました。

異学年が交流するさのっ子活動が取り入れられて3年が経ちます。子どもたちは、遊びの計画や行事の企画・運営等にかかわり、他者の考えを調整しながらよりよい活動になるよう務めています。相手の話を聞き、自分の考えと重ね合わせながら思考し、判断しながら表現していく力が育っているという成果の現れでもあると感じます。

一方、県・全国平均と比較してかなり低い正答率となった問題は、下線部のひらがなを漢字に書き直す次の2問です。みなさんも、解いてみてください。 ※解答は裏面をご覧ください。問題番号は実際とは異なります。

問題1 雑草取りを続けたのですが、いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。

問題2 きかんは7月1日から15日までです。

小学校で学習する漢字は、全部で1,026文字です。今回出題された問題の「いがいの『い』」「きかんの『き』」は、小学校3年生で、「いがいの『がい』」「きかんの『かん』」は、小学校2年生で学習する漢字です。授業で学習した直後には、おそらく間違えずに書くことができていたことでしょう。しかし、学習した漢字を、文の意味に合わせて書いていけるようになることも、大切な国語の力です。既習漢字は、国語以外の学習でも用いながら、日々の積み重ねを大切にしていきたいと思います。

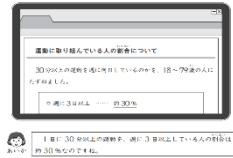
授業においては、今後も語彙の習得を図りながら、調べ学習を取り入れたり、それらを活用しながらまとめる学習を行ったりしていきます。それらの学習の中で、場に応じた言葉や文脈の読み取り・文章の構成について、「読むこと」「書くこと」との学習と関連づけながら指導を積み重ねていきたいと思っております。

算数

「図形」 県・全国平均より極めて高い

「データの活用」 県・全国平均より高い

<評価の観点>知識・技能 県・全国平均よりかなり高い



正方形や正三角形、台形など、既習の「図形」について、定義を理解したり面積の求積公式を活用したりすることは、県・全国に比べよく理解できていることが分かりました。具体物を使って実際に動かしたり、変化を感じたりすることで、理解が定着してきています。

それに対して、「割合」に関する問題が苦手なことが分かりました。どこを基準とし、何を求めたのかを把握することを苦手とする子が多いようです。問題に書かれた場面について、想像しながら考えていくことも難しいということが分かりました。

学年が上がると、抽象的な内容が増えるため、具体物を使うことが難しくなってきます。そのため、理解が追いつかないこともあると思います。身に付けた知識を実際の場面で活用することができるようになると、より定着していくのではないかと推察されます。

例えば、買い物に行ったら、料理に必要な具材や量を適切に選んだり、調味料の配分を考えたりしてみてください。合計の値段を概算したりする活動をすることで、算数がより身近なものになり、その便利さに気付くこともあると思います。日常生活の中から、家の人と一緒に算数を活用することができると、生きた算数の力が身に付くと思います。

授業においては、具体的な事象を取り上げた問題で基礎・基本の定着を図った後、抽象的な問題へと移行できるようスモールステップで、繰り返しの指導を図っていきたいと思います。

児童 質問紙

全体的な傾向として、規則正しい生活を行うことができています。

「朝食を食べていますか」97.3% 県・全国平均より高い。

「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」94.5%

県平均よりかなり高く・全国平均より高い。



上記の通り、全体的な傾向としては、規則正しい生活を行うことができていると判断できる子の割合が高いことが分かりました。これは、保護者の方の御理解や御協力のもと、お子様の健やかな成長のために、御尽力いただいている成果だと思えます。心身の発達のためには、規則正しい生活が欠かせません。引き続き、御家庭での温かな声かけとご指導・ご支援をお願い致します。

一方、課題としては、家庭での学習に取り組む質問や読書に関する質問が挙げられました。家庭においては、計画的に学習を行うことが求められています。特に、小学校高学年から中学生に向けては、宿題はもちろんですが、自分に必要な学習を、進んで取り組めるようにしていきましょう。6年生のみなさんは、現在行っている「自学ノート」を活用していくとよいでしょう。

読書については、図書室や図書館の利用頻度、読書量が県・全国平均に比べ極めて低いことが分かりました。映画化やアニメ化された本や興味のもてそうなジャンルから手に取り、活字に慣れることから始めてみるというかもしれません。学校では、図書委員会による企画が年間を通じて行われていますので、そのような際に図書室で本を借りてみるのもよいかもしれません。

【地域の中で育つさのっ子】

今住んでいる地域の行事に参加している 63.9% (昨年度同様、県・全国より肯定的な数値です。)

コロナ禍で削減されていた行事も、少しずつ開催されるようになり、子どもたちが地域の方と関わる機会も戻ってきているのではないのでしょうか。佐野小の子どもたちは、昨年度同様、県・全国と比べてみると肯定的な数値を示しています。学校では、今後も、地域の方をゲストティーチャーで招いたり、出前講座を活用したりしながら、さまざまな大人とふれあいながら学びを広げ、深めていきたいと思えます。

地域のみなさまに支えていただきながら、これからもさのっ子力である「かかわり合う力、学び合う力、鍛え合う力」を育てていきたいと思えます。

